「看護基礎教育のあり方に関する懇談会」の報告書について

2008／6／2　　朝日新聞　梶本章

●懇談会のテーマ

「看護基礎教育の方法や内容、期間については、我が国社会と保健医療福祉制度の長期的な変革の方向等、将来を見渡す観点から望ましい教育のあり方に関する抜本的な検討を早急にする」（看護基礎教育の充実に関する検討会報告書）

「少子・高齢化等を踏まえた看護と看護職員に求められる資質、およびそうした資質の看護職員を養成していく上での看護基礎教育の充実の方向性についての論点整理」（当懇談会趣趣意書の懇談内容より）

● 基本的な受け止め＝中長期的な我が国の社会・医療状況と、看護に求められる資質や技能。そのために目指すべきこれからの看護基礎教育のあり方を論点整理する

【２０年後の医療・社会】

① 医療の高度化・専門化
② 医療提供体制の組織化、チーム化
③ 高齢者医療・生活習慣病の増加
④ 在宅医療の増加
⑤ 人口のさらなる少子・高齢化
⑥ 経済の低成長

【看護職に求められること】

① 技能・専門性のアップ
② 基礎的な人間力（コミュニケーション能力、判断力）
③ 幅広い医学的知識
④ 在宅医療での総合判断能力
⑤ 医療・診察技術（いわゆる「医療行為」）
⑥ さまざまな組織の運営能力

【そのための看護教育のあり方】

① 基礎医学、基礎看護学などの充実
② 病院、在宅医療に必要な専門教育
③ 人間力の涵養（コミュニケーション能力）

④ 社会的な常識の涵養
⑤ 現場での看護実習の増加
⑥ 卒後研修の実施
⑦ より高度の専門性（医療行為を含む）は卒後教育で

● こうした基礎教育を実現するためには、実習を含め3年で習得するのは難しい。4年生大学を目指すのが妥当である。しかし、その場合、以下の問題について具体的な方向を明示するべきである

【4年生大学化を目指す上で検討が必要な問題点】
① 准看護師の問題をどうするか
看護師の基礎教育をレベルアップする中、実際に存在する准看護師の問題をどうするのか。それを放置したままの大学化は看護職の二層構造を固定することになり、一般の理解を得られない。今の准看護師は特例的に業務ができるようにするが、今後、養成していく必要はないのではないか。

② 移行過程をどう考えるのか
すでに4年生大学が校数、学生数とも伸びており、全体の傾向は4大化の方向に進んでいる。これを早めるのか、今の流れにまかせるのか、あるいは社会人のための3年生コースを一部残すのか。

③ コスト問題をどう考えるのか
従来の養成所がすべて教職員を増やして大学へ移行するのか。できるだけ短期間（3年）で看護師の資格をとって病院に勤務したいという要望にどう応えるのか。医療全体に及ぼすコスト（カネ、時間、資源）をどう考えるのか

④ 保健師、助産師の養成課程をどうするのか
現在の4年生大学は3年の看護師と1年の保健師・助産師の免許取得が認可要件となっている。4大化でこの方向をそのまま踏襲するのか。それとも、例えば4大化により看護基礎教育のさらなる充実を目指すのか。その場合、保健師・助産師の養成課程はどう位置づけるのか（4大の中で別コースとして考えるのか、4大とは別の大学院で扱うのか。その場合、これまで通りの養成が可能か）

⑤ 医療関係者の合意
病院、開業医、その他、医療現場の利害関係者の合意は得られるのか。